

地域研究（欧州）

（5月26日）

ヨーロッパの歴史③

6. 世界大恐慌と独裁者・ファシズムの出現

1918年、第1次世界大戦が終結した。翌年1月より、パリで講和会議が開催され、5つの主要な条約が締結された。例えば、敗戦国ドイツとの間ではヴェルサイユ条約が、また、同じく敗戦国であるオーストリアとの間ではサンジェルマン条約が締結された。ヴェルサイユ条約に基づき、ドイツは膨大な額の賠償金を40年以上にわたり支払うことになった。その負担の重さに苦しめられた国民は当時のドイツ政府に抗議する一方で、野党政治家であったヒトラーを支持するようになった。また、ドイツの賠償責任は、戦勝国、特に、フランスとの対立を招き、ヨーロッパにおける和平の維持・実現を妨げる要因となった。なお、フランスは、ドイツとの国境沿いにあり、石炭・鉄鋼業が盛んであった地域、つまり、ザールラントを支配下に置いた。

ヨーロッパを舞台とした大規模な戦争は、欧州統合運動を活性化させる契機ともなった。なかでも、オーストリアのクーデンホーフ・カレルギー（Coudenhove-Kalergi）伯は、第1次世界大戦で荒廃したヨーロッパが再興し、米ソ両大国に対抗しうようになるためには、ポーランドからポルトガルにわたる諸国家が政治・経済的同盟（汎欧州同盟）を結成することが必要であると訴えた（汎ヨーロッパ運動）。彼の見解は1920年代に多くの賛同者を集めて発展したが、1930年代に入ると国家主義が台頭し、鎮圧された。なお、カレルギーの母親は日本人であり（父親はオーストリア人）、日本の童謡を聴きながら成長したと言われている。

1929年以降、フランスの外相ブリアン（後に首相にもなる）は欧州統合の重要性を度々、提唱した。また、彼は独仏和解の実現に貢献した。

しかし、その陰では、戦後の秩序に対する不満分子としてファシズム（独裁体制）が次第に勢力を増していく。1929年10月、ニューヨークで株価が大暴落したことをきっかけとし、大恐慌の波が世界各地を襲ったが（これは米国のグローバルな影響力の大きさを示す契機となった）、大不況（失業者の増加）や物価高騰はファシズムをますます勢いづかせることになった。

1933年、ヒトラーがドイツ首相に選出された。また、1935年、ザールラントは住民投票を実施し、ドイツを復帰を決めた。イタリアに起源をおくファシズム（独裁体制）とは異なり、ヒトラーが標榜するナチズムは純血主義をとり、ユダヤ人を虐殺した。戦争終結までに殺害されたユダヤ人は600万にのぼるとされている。

なお、第1次世界大戦後には、集団的安全保障（また、仲裁や合意による紛争の解決）を目的とし、国際連盟が設けられたが、米ソ両国が参加しなかったこともあり、適切に機能しなかった（なお、ソ連は1934年に加盟したが、その時には、国際連盟もう実質的に機能していなかった）。

7. 第2次世界大戦と戦後の東西対立

1939年9月、ドイツがポーランドに侵攻することで、第2次世界大戦が開始された。第1次世界大戦とは異なり、この大戦は「独裁政治」対「民主主義」というイデオロギー対立の様相を呈していた。

開戦当初、ドイツはフランスやベネルクス3国を含む近隣諸国を制圧し、優勢を誇っていた。また、ドイツが占領するヨーロッパの広い地域で通貨を統合する案も発表する。しかし、次第に情勢は悪化し、1945年5月、無条件降伏を言い渡す。これによって、1945年5月8日、ヨーロッパにおける第2次世界大戦は終了した。

ドイツとの戦いに勝ったフランスは、石炭・鉄鋼業が盛んであったザールラントを再び支配下に置く。

終戦は「ヨーロッパの時代」に終わりを告げるものでもあり、米ソ両大国の狭間でヨーロッパは東西に分裂する。これは敗戦国ドイツの占領統治体制をめぐる顕著に現れた。ドイツは、英独仏ソの4ヶ国によって占領統治されることになったが、西側3ヶ国（英独仏）とソ連の間では見解がまとまらなかった。そのため、前者は自らが占領する地域のみを統合して管理し（これが後の西ドイツとなる）、共通の通貨を発行する方針を打ち出した。なお、首都ベルリンはドイツ東部、つまり、ソ連の占領地域内にあったが、4つに分割され、上記4国がそれぞれ占領することになっていた。つまり、ベルリンはソ連の占領地域内にあったが、その一部（西側）は米英仏の3国によって占領されることになった。上述した3国の方針に反発したソ連は、ベルリンで3国が占領していた地区を包囲することで対抗した（1948年6月のベルリン封鎖）。

東西両陣営の対立により、「ヨーロッパは鉄のカーテンによって分断されている」と述べたのは元イギリスの首相チャーチルである。また、彼は独仏和解の重要性や、アメリカ合衆国に相当する「ヨーロッパ合衆国」の創設を提唱し、戦後の欧州統合に原動力となったことでも知られている。

ヨーロッパでは度々、戦争を引き起こしたドイツを弱体化させる必要性が指摘されていたが、東西冷戦が激化する中で、西側諸国は「西ドイツ」を自らの陣営に引き込むだけでなく、西側の安全保障の一翼となり貢献することを「西ドイツ」に求めるようになった。そのため、「西ドイツ」の再軍備を認めるようになった。

第2次世界大戦後、国際連盟は解散し、代わって、国際連合が設立された。この機関は民主主義や国際平和の維持・確立に貢献すべきとされているが、大戦中の人権侵害、特に、600万人ものユダヤ人が殺害されたことを受け、国連総会は世界人権宣言を採択した。このように、戦後は民主主義、平和の確立、人権保護が重視されるようになる。

国連のヨーロッパ版として、ヨーロッパ諸国は欧州評議会を創設した。また、世界人権宣言のヨーロッパ版として、欧州人権条約を制定した。